

事業所名	しあわせ駅次郎丸		公表日		令和 7年 1月 18日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		わかりやすい構造である。 情報伝達には、写真や絵カードもあり、子ども達も意思伝達に利用している。	利用者の安全を第一に、改善が必要な点は、速やかに対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃し、清潔で心地よい環境となっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		広い部屋や小部屋、庭も活用することで自身の過ごしやすい環境を選びやすくなっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		その都度、振り返りと目標設定を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の朝礼時だけでなく、日常的に相談しやすい雰囲気作りにも努め、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部からの意見には真摯に聞き合い、適切に対応できるよう努めている。	第三者による外部評価については、今後依頼するかを会社と検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に積極的に参加している。事業所内研修も月1回行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムはガイドラインに沿って適切に作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で共有し、日々朝礼でも確認し合うよう努めている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節に応じた活動も取り入れ、工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状況に応じて臨機応変に対応し、支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		職員間で共有すべき事項や気付いた点等、支援終了後に伝達し、翌日朝礼でも再確認している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせず支援を行っているか。	○			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動の選択をしたり、制作では材料・色を選ぶ、好きなおやつを選ぶ等、自己決定をする力を育てる機会を作り、工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		保護者が情報共有して下さっている。必要性・要望があれば、連携していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校のホームページや、連絡用アプリの活用、また、学校送迎時に情報共有に努め、会議にも積極的に参加している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		必要に応じて行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		必要に応じて対応していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		職員研修の一環で講師として来て頂いたり、外部研修等 参加している。	今後も積極的に継続していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		○		地域のイベント等に参加する際など、交流する機会を設けるよう工夫している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会の区部会主催の研修や交流会に、積極的に参加している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時の会話や連絡帳にて、子どもの状況を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年に1~2回程、ペアレント研修を開催できるよう努めている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		悩み等、相談には、電話や面談で丁寧に対応を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		ペアレント研修の際等に、保護者同士の交流が持てるよう工夫している。系列会社のイベント等のご案内をさせて頂いている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS等を活用し、いち早く情報提供できるよう努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の方との挨拶やコミュニケーション等を心掛けています。	今後、ニーズがあれば検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	各マニュアルを策定し、定期的に訓練を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	業務継続計画を策定し、訓練等を行っている。備蓄物の準備も進めている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止に向け、方策を検討、共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	虐待防止の研修を行い、意識の向上に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	もし必要となった際には、十分に説明の上対応していく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しあわせ駅次郎丸		
○保護者評価実施期間	令和 6年 10月 1日		～ 令和 6年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29世帯	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和 6年 10月 1日		～ 令和 6年 10月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6年 11月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【設備】 療育しやすい空間となっている。 広い部屋に加え小部屋も複数あり、子ども達の目的に応じて過ごす事ができる。また、その日の子どもの状況に臨機応変に対応しやすい。広い庭もある。</p>	<p>広い庭には大きなトランポリンもあり、子ども達が楽しみながら体幹トレーニング出来ている。</p>	<p>トイレがもう少し広くなると介助がしやすい。</p>
2	<p>【職員】 勤続年数が長く、経験豊富な職員が多い。 子ども達にとって安心して過ごす事ができる雰囲気・人的環境となっている。</p>	<p>風通しの良い職場であることが、子ども達や保護者にとってもまた、過ごしやすい環境・利用しやすい環境につながっていく。 その意識を持って過ごすよう努め、マナー等 様々な研修も行っている。</p>	<p>新しい職員も入ることで、新たな取り組みや、より良い方法を見出し、取り組んでいく。</p>
3	<p>【多様なサービス】 しあわせ駅は事業所が複数あること、また、相談支援事業所、グループホーム(ショートステイ)、就労、カフェもあることで福祉サービスの利用の幅が拡がりやすい。</p>	<p>ショートステイご利用の際、放デイとショートステイ先の職員同士の連携がとりやすい。 障がいのある方への理解あるカフェに行けることで、外食体験も活動に取り入れやすい。</p>	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>支援学級のお子さんの新規問い合わせが多くなってきたが、送迎の都合で学校数を増やすのは難しい。</p>	<p>受入可能人数、職員数、車両数などが要因として挙げられる。</p>	<p>系列事業所と連携を取り、可能な限り対応できるよう努めている。</p>
2			
3			